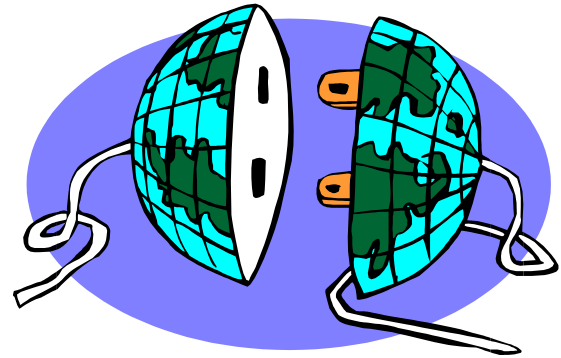


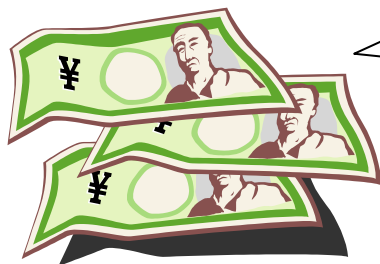
マジで？進化論

初めに、神は天地を創造された。創世記 1 : 1

1980年。
シカゴ会議において、
ダーウィンの進化論は見限られてしまいました。



はじめに・・・。



あなたの財布から、千円札を取り出してみてください。そして、あなたの近くにいる人にその千円札を差し出して、こうしてみてください。「実はさ、この千円札って、偶然できたんだって！偶然きっちりした長方形の紙ができて、インクが飛び散って文字や模様ができて、いつのまにか透かしができたんだって！すごいよね！偶然って、ほんとうに素晴らしいよね！」

ま、ありえない話ですよ。

日本の紙幣は、とても丈夫な紙でできているそうです。そして、偽札が出回らないために、様々な工夫がほどこされています。その紙幣は、偶然できたものではなく、何人かの人たちが頭をひねって作り上げたものですね。

では、この世界はどうでしょうか？一枚の千円札より、はるかにはるかにはるかにはるかにはるかにはるかにはるかに！！！！！！複雑なこの世界が、偶然できるものでしょうか？なんか、不自然な話だと思いませんか？



もくじ

- | | |
|---------------------|-----|
| ①人間の存在 | P4 |
| ②中間型、いまだ見つからず | P5 |
| ③恐竜とお友達！～地球はおじいさん？～ | P8 |
| ④マジなんです！ノアの大洪水 | P11 |
| ⑤古代文明が教えてくれること | P15 |
| ⑥そして、今わたしたちがここにいる | P20 |



①人間の存在

進化論は、「すべてが偶然できた」という考え方です。そう、わたしたちも、偶然できたというのです。この地球も、美しい日本の四季も、ぜんぶ偶然だというのです。あなたは信じることができますか？よくこの世界を見てみてください。あまりに**完璧**すぎます。あなたの家の本棚に、なにか人体に関する図鑑のようなものはありますか？それをぱらぱらと読んでみてください。人間の体は、あまりに完璧すぎると思いませんか？

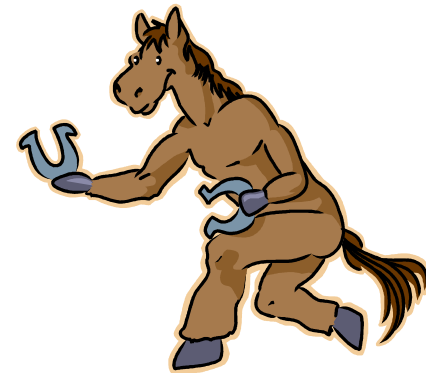


人間がどれくらい恐ろしい存在か知っていますか？DVDのディスクには、本3000冊分のデータを入れることができるそうです。では、BB弾一個分ぐらいの人間のDNAがあると、どれくらいのデータを入れることができるか知っていますか？そのデータを本にして積み上げると、月と地球を150回往復できるぐらいの高さになるそうです。DVDのディスクが偶然できたと断言する科学者はいないでしょう。そんなことはありえない話です。でも、そのDVDよりはるかに複雑な、そして恐ろしいまでの能力を持っている人間は偶然できたというわけです。どうです？**奇妙な話**でしょう？

「わたしは、恐ろしい力によって、驚くべきものに造り上げられている」詩篇139：14

②中間型、今だ見つからず

実は、進化論というのは、**仮説に過ぎない**のです。知っていましたか？なんで仮説かと言いますと、**証拠がない**のです。「えー！じゃあ、あの化石は？あの絵は？」と思うかもしれません。確かに、様々な化石が発見されています。しかし、それはすでに絶滅した動物の化石や、現在も存在している動物の化石、もしくは現在もいる動物が変化した化石にすぎません。つまり、こういうことです。ダーウィンの進化論によれば、コウモリはネズミから進化したことになっています。確かに、ネズミの化石や、コウモリの化石は、たくさん発見されています。ほんとうにコウモリがネズミから少しずつ進化したのであれば、その中間の化石がたくさんあるはずですが、しかし、ネズミとコウモリの中間型の化石はひとつも発見されていません。他の動物でも同じです。**進化の証拠となるはずの中間型の化石は、ひとつも発見されていない**のです。そして、中間型の動物といわれる絵もたくさんありますが、あれは、わずかな骨から人間が想像して描いたものや、もしくはまったくの想像から描いたものです。馬の進化の図と呼ばれるものを見たことはありますか？あれをみると、馬は順調に進化していったように見えます。しかし、あの図は、世界中からいろいろな大きさの馬の骨や、馬に似ている骨をかき集めて、大きさの順に並べたものにすぎません。始祖鳥の化石も、中間型の化石として有名ですね。しかし、羽の先に爪がついた鳥は現在でも存在します。じゃあ、アウストラロピテクスは？ジャワ原人は？ネンデルタル人は？クロマニヨン人は？と思うかもしれません。でも、それもぜんぶ**人間の偽造、もしくは勘違い**なのです。



アウストラロピテクス→サルの骨に、人間の膝の骨を混ぜたもの。

ジャワ原人→マントヒヒの頭骨と、いくつかの動物の骨を混ぜて、偽造したもの。

ネアンデルタール人→よく調べてみたら、病気で骨が曲がってしまっている、ふつう

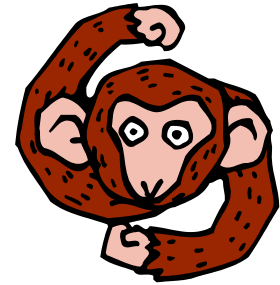
の人間の骨だった。骨が曲がっているので、サルと人間の中間型に見えただけ。

クロマニヨン人→まったくもってふつうの人間。洞くつにすんでいたというだけ。

他にも、サルと人間の中間型と呼ばれるものがいくつかありますが、それはぜんぶわずかな骨から想像したり、人間の骨を加工して偽造したりしたものなのです。

そんなこんなで、ダーウィンの説は、もはや見限られてしまったのです。そして、進化論者たちは相変わらず新しい説を考え続けています。しかし、変わらないことがひとつあります。**証拠がない**のです。

この世界をよく見てください。この調和がとれた、美しい世界が、ほんとうに偶然できるのでしょうか？大きなデパートに出かけて行って、そこで売られているものを見てみてください。恐ろしいほどの人間の知恵をそこに発見できます。その人間が、ほんとうに偶然できるのでしょうか？



さあ、冷静になって考えてみましょう。わたしたちは、ほんとうに偶然の産物なのでしょうか？それとも、誰かの意志によって造られた、意味ある存在なのでしょうか？

進化論は、論理的な考え方で、「神さまが世界を造った」なんて、ただのおとぎ話だ、と人間は考えます。でも、どうでしょう？証拠のない進化論は、ほんとうに論理的な考え方でしょうか？

③恐竜とお友達？～地球はおじいさん？～

進化論では、恐竜は約2億2千5百万年前から約6千5百万年前に存在していた、とされています。つまり、進化論によれば恐竜と人間は別々の時代に生きていた、というわけです。でも、こんな事実があるのです。

○あるテラノサウルスの骨を、顕微鏡で観察してみたそうです。すると骨の中に赤血球とヘモグロビンが見つかったのです。科学者達は仰天してしまいました。ヘモグロビンは、数千年もたつと分解されてしまうものだからです。恐竜は、ほんとうに数千万年前の生き物なのでしょうか？

○アラスカでは、化石化されていない恐竜の骨が発見されました。そのうちのいくつかには、まだ**靱帯**が付着していたのです。

○1845年。オーストラリアの原住民、アボリジニーが「バニアップ」と呼ぶ動物の絵が、新聞に載りました。ある人が拾った骨を、アボリジニーが、「それはバニアップのものだ」と言い、それを画家に描かせたのです。バニアップは、エドモンドサウルスにそっくりでした。エドモンドサウルスの化石が発見される13年前のことです。どうしてアボリジニーはエドモンドサウルスの姿を正確に知っていたのでしょうか？何千万年も前に絶滅しているはずなのに……。



○メキシコでは、恐竜の形をした土偶が3万個以上も見つかっています。どうしてメキシコに住んでいた人たちは、恐竜の形を知っていたのでしょうか？

○グランドキャニオンでは、数百年前に描かれた恐竜の壁画が見つかっています。数百年前、グランドキャニオンにいた無名の画家は、数千万年前にいた恐竜の姿を見たことがあるのでしょうか？

○世界中に、竜の伝説があります。おもしろいことに、その竜の姿はどれもよく似ています。昔の人たちは、恐竜をよく見ていたのでしょうか？

○12千支の中で、現在実在しないとされている動物は、竜だけです。どうしてでしょうか？昔は竜(つまり恐竜)は実在する動物だった、と考えるのはとても自然なことではないでしょうか？

この他にも、「恐竜を見た」という昔の人の証言がたくさんあるのです（もちろん、昔の人たちは、「恐竜」という言葉を使いません。「恐竜」という言葉が造られたのは、1842年のことです。ですから、聖書にも恐竜という言葉はありません）。進化論では、別々の時代にいたことになっている恐竜と人間、でも、実は**同じ時代に生きていた**ということ、この様々な事実が教えていないでしょうか？

☆2005年、つい最近の発見

恐竜の赤ちゃんを丸ごと飲み込んでいる哺乳類の化石や、恐竜といっしょに埋まっていたカモの化石が発見されました。恐竜も哺乳類も、同じ時代に生きていたことがわかります。

☆地球はおじいさん？

進化論では、地球の年齢は約46億年とされています。でも、これには何の証拠もありません。「生物が進化するには、長い時間がかかる」という前提によるものなのです。ですから、恐竜と人間は別々の時代に生きていた、ということになっているのです。でも、科学の進歩と共に、地球の年齢を判定するデータや証拠が段々とそろってきています。その結果わかることは、地球の年齢は数十億年ではなく、**もっと若い！**ということなのです。いくつかのデータを見てみましょう。

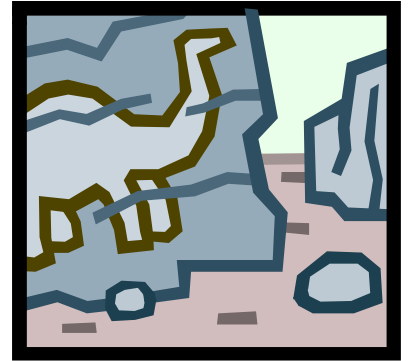
○太陽の直径は、一時間あたり180センチほど短くなっていくことがわかっています。ということは、10万年前は、太陽の直径は現在の倍で、地球は人が住むことができない環境だったことがわかります。2千万年前には、太陽と地球はくっついていたことになりました！

○地球上の岩石からは、少しずつヘリウムが放出されています。もし、地球の年齢が数十億年なら、現在の大气中のヘリウムの量は、実際の2000倍もの量になることになりました。



☆地層？

化石の年代は、どの年代の地層に埋まっていたか、によって決まります。地層と地層の間には、何百万年も隔たりがあるというのが、一般的な進化論の考え方ですね。でも、知っていますか？**いくつもの層にまたがっている木の化石や、くじらの化石が見つかっている**のです。何百万年（もしくは何千万年、何億年）も生き続けるクジラが存在するのでしょうか？あるところでは、古いとされている地層と、新しいとされている地層が上下逆さまになっているところもあるのです。というわけで、**地層も進化の証拠にはならない**のです（これに関しては、「マジなんです！ノアの大洪水」のほうも見てください！）



☆年代測定法？

地球の年齢や、化石の年代を正確に測定することはできません。年代測定法は、あてにならないものです。よく使われるのは、放射性年代測定法です。しかし、AD1800年に噴火した火山の火山岩を測定してみたら、1億6千万年前から30億年前のものだという測定値がでたそうです。ですから、この方法で年代を測定する場合、「これはあの年代の地層から出た化石だ」と言わなければ、測定できないのだそうです。炭素14測定法というものもあります。でも、これも、死んだばかりのアザラシを調べてみたら、1300年前に死んだという測定値がでるようないい加減なものなのです。

★化石ができるまで

進化論では、化石ができるのに何百万年も必要だとされています。しかし、実際には成分がちょうどいい割合で混ざるなら、化石はすぐできるのです。実際には、数十年で化石化したものが見つかっています。何百万年という時間は必要ないのです。

以上のいくつかのデータからわかることは、

- ①恐竜も人間も、同じ時代に存在していた。
 - ②地球の年齢は、数十億年ではなく、もっと若い。
- ということです。

☆では、聖書では？

聖書によれば、地球の年齢を数十億年ではなく、約6千年前です。聖書によれば、海の中の恐竜は人が造られる一日前、そして、地上の恐竜は人と同じ日に造られました（創世記1章）。そして、聖書には恐竜のような生物が登場します。

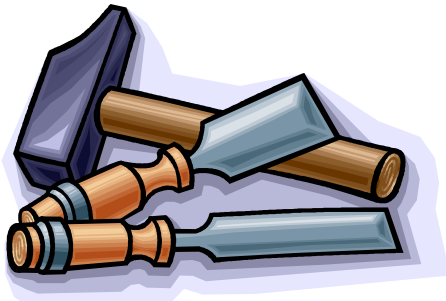
「見よ、ベヘモットを。・・・尾は杉の木のようにたわみ・・・骨組みは鋼鉄の棒を組み合わせたようだ・・・」

ヨブ記40：15

「お前はレビヤタンを・・・屈服させることができるか・・・背中が盾の列・・・」 ヨブ記40：25～41：26

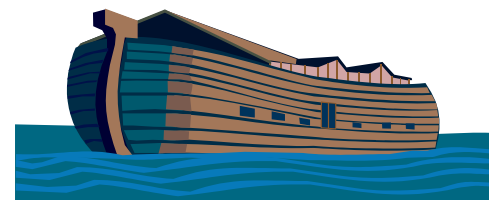
進化論でいう、「46億年前、どこかの池で生命が誕生した」ことを見ていた人間はいません。それを証言する物は何もないのです。地球が造られたときには、創造主なる神だけがいました。その神さまの言葉、神さまの証言、それが聖書なのです。世界を造った神さまの言葉と、数千年の愚かな歴史しかない人間の言葉、あなたはどちらを信じますか？

「わたしが大地を据えたとき、お前はどこにいたのか？」 ヨブ記38：4



④マジなんです！ノアの大洪水

ノアの大洪水を知っていますか？くわしくは、創世記の6章から9章を読んでみてください。何千年か前、この地上が悪で満ちていたとき、創造主は洪水によって人類を滅ぼされました。でも、ノアとその家族は、創造主の目になかったので、箱舟を作りました。そこに入ったひとつがいつの動物と、ノアの家族だけが生き延びた、というお話です。まるでおとぎ話ですね。でも、聖書に書いてある話です。**この話、もしかしてほんとうだったのかも・・・？**って、思えてきませんか？ほとんどの人は、この大洪水はおとぎ話だと考えています。でも、いくつかのデータがあるんですよ。そして、このノアの大洪水によって、地層の事も、化石の事も説明できるのです。では、ちょっと見てみましょう。



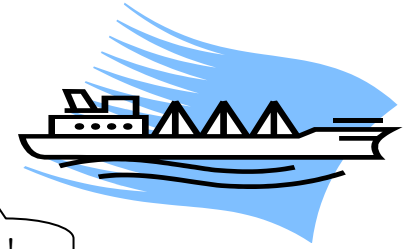
☆実は、世界中に洪水の伝説があります。そして、その伝説はとても似通っているのです。世界中にある**200以上**の洪水伝説の共通点を見てみましょう。

- | | | | |
|-------------------|-----|-------------------|-----|
| ○全世界をおおう洪水だった。 | 95% | ○人は船によって生き残った。 | 70% |
| ○洪水の原因は人の罪。 | 66% | ○神の目になかった家族があった。 | 88% |
| ○洪水前に人々は警告を受けていた。 | 66% | ○動物たちもいっしょに船に乗った。 | 66% |
| ○動物が何らかの役割をはたした。 | 73% | ○生存者は山の上に漂着した。 | 57% |

全世界を覆う洪水があり、それを神の命令によって生き延びた家族がいた、というのも、**ただの伝説ではない**ような気がしませんか？

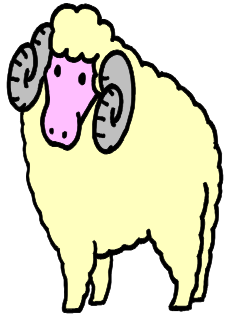
☆聖書の記録によれば、箱舟は、長さ132メートル、幅22メートル、高さ13・2メートルです。長さとの比率は、6：1です。この比率で作られた船は、波にも風にも強くて、とても安全なのだそうです。大型タンカーも、この比率で作られています。

おとぎ話にしては、ずいぶんと**造船工学的な作り**だと思いませんか？



ぼくって、動物の平均値！

ふふ、最強の船の法則！
それは、6：1イイイイ！



☆「箱舟にぜんぶの種類の動物が乗ることができたの？」と思うかもしれませんが。箱舟に乗る必要があった動物は、多く見積もっても5万頭を超えなかっただろうと考えられています。動物の大きさの平均は、羊ぐらいだそうです。5万匹の羊を乗せるのに必要なスペースは、約14000m³。聖書の記録によれば、箱舟の容積は、38300m³。動物たちには、箱舟の36・5%のスペースがあればよかったです（大きな動物でも、子供を乗せれば問題はありませぬ）。箱舟の中はうす暗く、雨が降り続けていたため、気温も低かったと考えられています。そのようなところでは、多くの動物が冬眠状態になったと考えられています。ですから、水も食料も、そんなにたくさん必要ではなかったのです。どうでしょう？おとぎ話のようで、実はとても**論理的な話**だと思いませんか？

☆地球の表面の75%は、堆積岩で覆われています。堆積岩とは、水の中に泥や砂が積もることによってできるものです。

普通の洪水では、こんなにたくさんの堆積岩はできません。

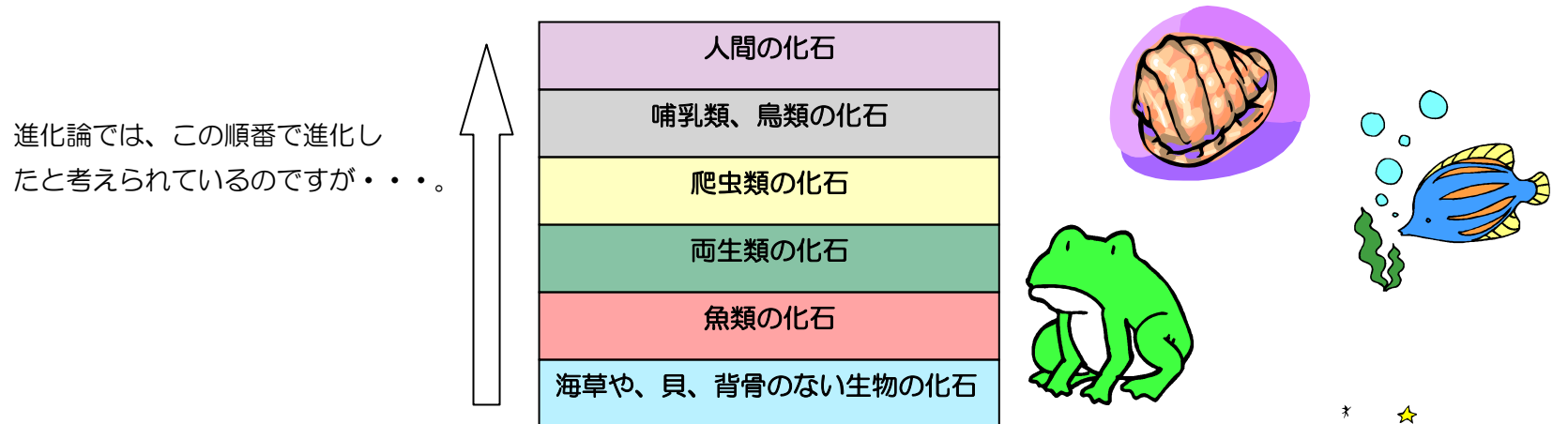
これは、**地球全体が水に覆われた証拠**ではないでしょうか？



☆聖書を信じる科学者たちは、地層は、ノアの大洪水によってできたと考えています。こんなかんたんな実験をしてみてください。ビンに水を入れ、小石や土、粘土などを入れてよくふるのです。すると、重いものから沈んでいき、しましま模様ができます。これと同

じように、世界中にある地層も、少しずつできたのではなく、ノアの洪水によって少しの期間によってできたと考えるのも、なかなか自然な考え方だと思いませんか？

☆さて、地層は次のような順番で積み重なっており、それぞれには何千万年の隔たりがあり、これが進化の証拠になると一般的には言われています。でも、ノアの洪水によって地層ができたとするなら、こう考えることができるのです。



ノアの大洪水によってこの地層ができたとするなら、こうなります。

最初に泥に埋まったのが、海底に住んでいる貝など、単純な生物。

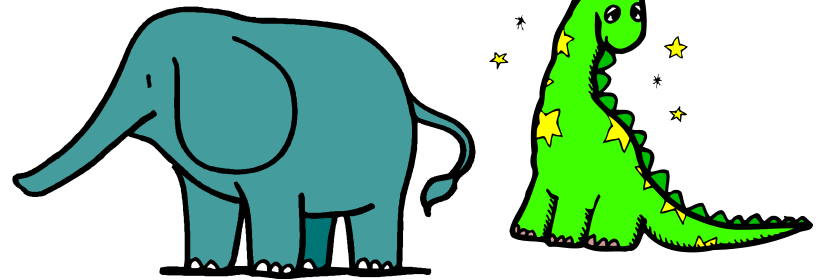
次に、埋まったのが、水から出ることができない魚。

その次は、水辺に住み、逃げ足もおそい両生類。

次は、それなりに逃げることもできた爬虫類（恐竜など）。

次に、運動能力が高い哺乳類や鳥類。

最後に、水から逃げる知恵があった人間。



☆このように、大洪水によって、たくさんの生物が大量の土砂の中に埋まってしまいました。そして、化石ができたのです。化石ができるまで、数百万年の年月が必要だと考える人もいますが、実際には、そんなに長い時間は必要ではありません。でも、最も重要な事は、このように、**きちんと順番どおり積み重なっていて、化石群がきっちりと分類されている地層は、世界中どこを探してもないのです！**そして、実際に、いくつもの地層にまたがって化石になっている動物や植物が存在するのです。つまり、**めちゃくちゃ**なのです。でも、ノアの洪水で地層が短期間できたとするならば、これも納得できる話ではないでしょうか？洪水は、きちんと起こるものではなく、めちゃくちゃなものだからです。

どうでしょう？信じたくありませんか？ノアの大洪水を。というより、聖書を。ほんとうの神さまの言葉を！



主よ、あなたは近くいてくださいます。あなたの戒めはすべて真実です。詩篇119：151

④古代文明が教えてくれること

様々な文明が栄え、また滅びていきました。そして、世界中にたくさんの遺跡、遺物が残されています。そして、その様々な遺跡は、現代の我々の持っている技術でも作れないものがたくさんあるのです。そして、世界中で発見されているたくさんの遺物が、古代人たちが驚くべき技術と知性を持っていたことを物語っているのです。

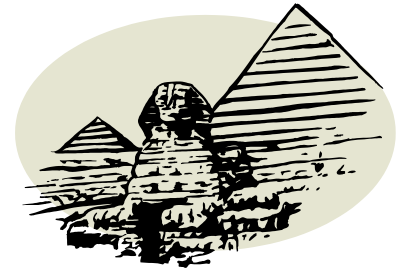
(以下は、<http://contest.thinkquest.jp/tqj2000/30256/index.html> 「Maniac Archeo」からの抜粋です)

☆「ありえない」遺跡、遺物の数々

○エジプトのピラミッドとスフィンクス

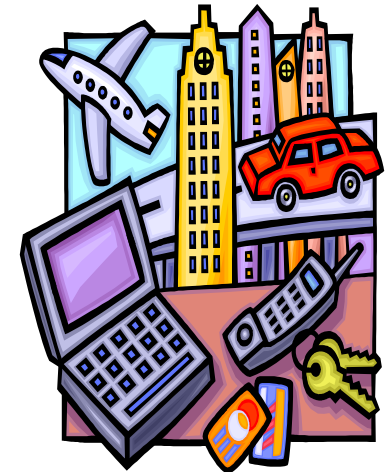
ピラミッドの建造方法が未だに謎である、というのは有名な話だ。ピラミッドは約 5000 年前に建てられたとされているが、その時代に巨大な石を寸分の違いなく積み重ね、しかも有名なギザの三大ピラミッドなどは数千年間崩れずに四角錐を維持している。ピラミッドが潰れずに済んでいるのは、内部の「重力拡散の間」と呼ばれる部屋がピラミッド全体の重力を和らげているおかげらしい。もちろんこの構造は、高度な技術と知識を必要とするものだ。

さらには、材料である石の運搬方法も謎である。ナイル川を使って運ばれたらいいが、そもそも石の量が膨大であるし、例えば船などを使って運搬したとしても石を岸に引き上げ、縄などを結び(あるいは台などに乗せ)、そこから建築場所まで運ぶ、などという手間をかけていては、到底建築に間に合うものではない。それに、ピラミッドに使用されている石は何tもの重さがあるので、それを運ぶ船を造るだけでこれまた膨大な木が必要になり(数隻で行ったり来たりしていても全くはかどらないので)、堂々巡りになってしまう。もちろん、陸路で運ぶというのは無理だ。石切場からピラミッドまでは遠く離れており(具体的なデータは現在手元にありません。後日追加します)、巨大な石を引きずって歩ける距離ではないし、時間ばかり無駄にかかってしまう。人手もばかにならない。ちなみに、「これがピラミッドの建築方法である」というような発表もいくつかあるが、実際にピラミッド建築に成功した人はまだいない。



○ペルーの「六枚屏風岩」

南米ペルーのアンデス山中、オヤンタイタイボ。かつてインカ帝国の首都であったクスコの北の小高い丘の城塞遺跡に、「六枚屏風岩」と呼ばれる巨石建造物が残っている。この遺跡はプレ・インカ時代のもので、太陽神殿として利用したらしい。「六枚屏風岩」は、分厚い6つの花崗岩ブロックを横に並べた列石で、1つ1つのブロックの間には、4つほどの小さな突起がついた幅の狭い薄岩がはめ込まれてある。もちろん、隙間などない。花崗岩ブロックの大きさは不揃いだが、大体高さ4m、幅 2.5 ほど、厚さ2mほど、重さは推測 50～80t。ウルバンバ川を見下ろす絶壁の崖っぶちに位置する。石切場は川向こうの山頂で、約 10km 離れている。つまりブロックは、そこで切り出されたあと 330m引きずり下ろされ、川を渡り、150m引きずり上げられたわけだ。ちなみに川を渡ったところに切石が放置されており、この経路を実際に使用していた事を証明している。現在、この建造物が造られた時代には、なんと車輪は発明されていないとされている。鉄なども使われていなかった。つまり彼らは崖を引っ張り上げるのに滑車を使用していないし、重量に耐えられる鉄の台を造る事もできなかったということである。



○ナスカの地上絵

ペルーのナスカ大地、その地面に描かれた大小さまざまな絵、それがナスカの地上絵である。この地上絵は、2000 年前、付近で暮らしていたナスカ人によって描かれたとされている絵には様々な種類があり、人間、猿、ハチドリ、蜘蛛、トカゲなどの生物画から直線、幾何学模様、螺旋など記号的なもの。大きさは、小さいものは20m、大きいものは、例えばとある矢印は長さ 50kmにも及び、生物画でも300m近いものがある。ちなみに現在発見されているのは、生物画などが 800 余り、直線では約 13000 本にも及ぶ。この絵は巨大すぎるため、地上からは絵として認識することができない。模様を把握するためには高度 300m以上の上空から見るとしかなく(上記の矢印は宇宙からしか見えない)、もちろん 2000 年前には飛行機などないため、その他の飛行手段(気球のようなもの?)を持っていたか、図形を正確に拡大し寸分のズレなく地面に描く技術があったのか……。

○インドの飛行車ヴィマーナ

インドには飛行機があったらしい。というのも、数々の書物に古代インドには『ヴィマーナ』なる飛行乗り物が存在したと記されているのだ。

例えば、インドの聖典『ヤジェル・ヴェーダ』やインド2大叙事詩『ラーマヤナ』『ヴァイマーニカ・シャストラ』。特に『ヴァイマーニカ・シャストラ』にはヴィマーナの飛行性能、設計構造、動力エネルギー、用途別種類などが細かく書かれている。ちなみにヴィマーナの動力は水銀だったらしい。

○コスタリカの巨大石球

1930年初めに、中米・コスタリカのジャングルで発見された人造大石球。これら、大小200個の石球はほぼ正確な真円球で、こういった加工は現代でも難しいとされている。石球は花崗岩(一部は石灰岩)製で、直径2cm~2.6m。重量は最大で約25t。どれくらい正確な真円球かというと、直径との誤差の最大値は0.2%。全く誤差のない石球も2つ発見されている。おそらくこの石球の制作者達は、直径から球の形を正確に導けるほどの高度な数学的知識と、石をmm(ミリメートル)のずれもなく成形できるだけの技術を持っていたのだろう。その制作者だが、学会の説では、紀元4世紀から9世紀のディキス石器人だという。しかし彼らは花崗岩を加工できるほどの工具は持っていなかったはずだ。



○イラクの古代電池

1800年に、イタリアのアレッサンドロ・ボルタは人類最初の電池を開発した。その電気の仕組みは、2つの金属を酸に入れ電流を取り出すというものだった。しかし今から約2000年前も昔に、古代パルティア人は電池を使用していたらしい。古代電池が発見されたのは、イラクのバグダッド、古代パルティア王朝の遺跡とその周辺の遺跡。陶製の壺(高さ15cm、幅9.2cm)の中に銅製の円筒形物体(長さ10cm、直径2.6cm)が入っていて、円筒形物体の中には鉄棒が1本入っていた(ただしこれは腐食が激しい)。復元してみたところ、約1.5ボルトの電気が起きたらしい。

○古代南極地図

1956年、米軍少佐アーリントン・マレリーは、複数の古地図をワシントンの国立博物館で発見した。その地図には、1513年6月4日の日付で、「2000年前の古地図を模写す。」と記されていた。今から約2500年前のその地図には、驚くほど正確な(現在使用されている地図とほとんど変わらない)世界地図が描かれており、さらには、南極までが描いてあった。これだけでもすごい。2000年前の航海術で、氷に覆われた南極大陸までいきついたのである。しかしそれだけではなく、そこに描かれていた南極の地形は、分厚い氷の下、陸地部分の地形だったのだ。南極大陸の海岸線が判明したのは1957年の事だから、誰かが偽造したわけでもない(発見されたのはその1年前なのだから)。つまり、この地図が描かれたのは氷河期以前であるか、2500年前(仮にもっと後のものだったとしても構わないが)に氷の下の地形まで分かるほどの測量技術を持っていたかのどちらかである(*測量のことは詳しく知らないで、そんなことが可能かどうかは分からないが……)。さらに、この地図は微妙に歪んでいるのだが、これは実は、人工衛星くらいの高度(数万メートル)から地球を見ると見えるらしい。



○地中海の太陽系惑星儀

1900年、地中海の沈没船から発見された。この船は、紀元前1世紀頃に沈んだギリシアの船。地中海のアンティキテラ島沖に沈んでいた。惑星儀は発見当初、ボロボロに腐食していた。それをケンブリッジ大学のデレク・プライス教授が1971年、復元に成功した。ブロンズ製で、太陽系諸惑星の運行を正確にあらわせる。しかしこのころのギリシアに、惑星の運行を精密に調べることのできる天文観測技術も、複雑な動作をする惑星儀の製作に必要な作動ギア技術も、存在してはいなかった。

これは、ほんの一部で、他にも古代人が驚くべき技術を持っていたことを証明する遺跡や遺物はたくさん発見されているのです。このような発見は、進化論者たちを困惑させました。進化論の世界観がめちゃくちゃになってしまうからです。進化論によれば、人間の技術は、少しずつ進歩してきており、現代の人間が最高の技術を持っていることになっています。しかし現実には、現代の技術でも作り出すことができないものが多数発見されているのです。現実の発見が、進化論と逆の説を提唱していると言えるのです。

そして、聖書を読んでみると、古代人が高度な技術をもっていたことが読み取れます。

「カインは町を建てていたが・・・」 創世記4：17

最初の人間、アダムから2代目のカインが、すでに町を建てています。

「アダはヤバルを産んだ。ヤバルは、家畜を飼い天幕に住む者の先祖となった。その弟はユバルといい、豎琴や笛を奏でる者すべての先祖となった。ツィラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅や鉄でさまざまな道具を作る者となった」創世記4：19～22

アダムから8代目で、すでに楽器を作り、青銅や鉄を使って道具を作っているのです。人間は、「神に似せて」（創世記1：26～27）つくられています。ですから、人間が高い頭脳を持っていることは、当然のことなのです。進化論者たちは、人間は少しずつ進歩していると考えます。しかし、聖書は、人間は最初からすばらしい存在として造られ、それからどんどん墮落していることを、わたしたちに教えてくれます。そして、「ありえない」発見の数々は、**聖書の世界観が現実**だということを物語っていないでしょうか。

☆滅びていった古代文明

高度な文明を持った、たくさんの民族が栄えては滅びていきました。その滅びていった民族に共通する特徴があります。創造主である神さまではなく、勝手に作った神を拝んでいたということなのです。そう、彼らはみな、ほんとうの神さまに逆らったのです。

古代から現代まで、ずっと存続している民族は、世界中にひとつだけです。唯一の、ほんとうの神を礼拝する、ユダヤ人です。

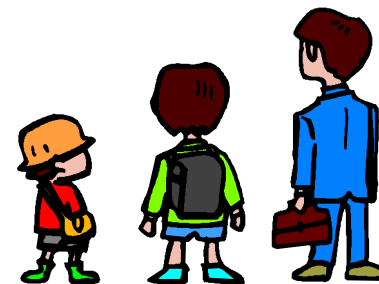
⑤そして今、わたしたちがここにいる。

聖書には書いてあります。

「万物は言（イエス・キリスト）によって成った」 ヨハネによる福音書1：2

わたしたちは、神（イエス・キリスト）によって造られました。神さまは、愛するために、愛する存在として、人間を造ったのです。イエスさまこそ、わたしたちの生きる目的です。生きる意味なのです。でも、人間はこのほんとうの神さまに逆らってしまったのです。

進化論はおとぎ話です。この世界が、偶然できるはずがありません。外に出て、空気を吸い込んでごらんください。人間が生きていくためにいくつかの気体が完璧な割合でミックスされた空気。進化論によれば、そのすばらしい空気は偶然だということです。空を見上げてごらんください。太陽が地球を暖めています。その太陽の回りを、地球は自転しながらぐるぐると回っています。それも偶然だということです。少し歩いてごらんください。あなたが町に住んでいるなら、たいして歩かないうちに、一台の自動車ぐらいは発見できるはず。自動車は、自分で動く事ができません。誰かに動かしてもらわなければなりません。自動車は、意志も感情も持っていません。何かを作ることもできません。その自動車が、偶然できたと思っている人はいないでしょう。でも、自由に動く事ができ、意志を持ち、泣き、笑い、怒り、自動車や、あなたが今歩いている町を作ってしまう人間は偶然だということです。どうしてですか？どうしてそのようなおとぎ話を信じるのですか？



人間は、どうしても神さまを認めたくないのです。神という存在を、この世界から追い出してしまいたいのです。人間は、いつの時代でも反逆者です。この世界を造った神さまに逆らう反逆者です。進化論が登場するずっと前の時代から、この世界が神によって造られたことを認めない人たちがたくさんいました。ある人たちは、何かの像を作って、それを拝みました。木や石でできた、ただの物質を拝んだのです。ある人たちは、太陽や月を拝みました。またある人たちは、神の存在を全く無視しました。そうです。昔から、人間

は神さまに逆らい続けてきたのです。それが罪なのです。わたしたちは、みんな罪人なのです。

神さまは、逆らう人間に罰を与えることにしました。死ぬ事と、死んだ後で地獄に投げこまれることです。でも、神さまは、わたしたちを愛するあまり、ご自分の独り子、イエスさまが十字架について死ぬ事をよしとされました。そして、自分の子を殺してまでもわたしたちを救おうとしておられるのです！

あなたがイエス・キリストを信じるならば、あなたは罪を許され、永遠の命をいただき、もう罰せられることはないのです！イエスさまは、あなたの代わりに死に、復活しました。あなたを愛しているからです。あなたは、このあなたの神さまを受け入れますか？それとも拒みますか？

信じるなら、祈ってみてください。

「イエスさま、あなたを信じます。わたしの罪をゆるしてください」

イエスさまを信じるには、教会のメンバーになったり、何かの団体に入ったり、献金を収めたりする必要はありません。ただ信じるだけでいいのです！ イエスさまは、ほんとうに生きていて、**あなたを愛しているのです！** イエスさまを信じて、永遠の命を受けてください！ そうしなければ、あなたは地獄で永遠に苦しむことになるのです！

「彼は自らをなげうち、死んで、罪人の一人に数えられた」

イザヤ書53：12

